

学校名	大村市立松原小学校
活動名	「松原の海に親しみ、海を愛する活動」
教科 学年	総合的な学習の時間 5・6年生

1 単元名 「私たちの海について知ろう」

2 単元の目標

松原の海を題材とした学習を通して、日常生活や身近な海との関わりの中から、自ら課題を設定し、よりよく問題を解決していく資質や能力を身に付けるとともに、主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、松原の海に親しみ、海を愛する気持ちをもたせることができるようにする。

3 指導計画（総合的な学習の時間 5年生：18時間 6年生：25時間）

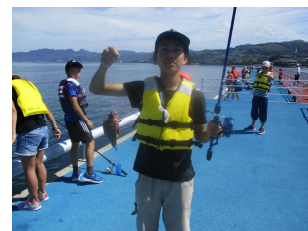
※は連携機関

月	学習内容	指導上の留意点
5月	○大村湾について知っていることを出し合おう。 (総合1時間)	○大村湾について知っていることを自由に出し合わせ、身近な海についての関心を高める。
6月		
7月	・松原海水浴場の清掃活動に参加しよう。 (地域主催の奉仕活動) ○魚釣りをしよう② (総合2時間)	○清掃活動を通して、海岸のゴミ等に関心を持たせる。 ○魚釣り体験を行わせることにより、漁業や環境について関心を高めさせる。
8月	○ヨット体験をしよう。(総合3時間) ※長崎県立長崎工業高等学校ヨット部	○ヨット体験で実際に海や海岸で活動を行うことにより、海への関心を高める。
9月	○松原の漁業について調べよう。(総合4時間) ・アワビ陸上養殖場見学	○新たな探求的活動を仕組むことにより、大村湾についての理解を深めたり、海についての興味・関心をさらに高めたりする。 ○アワビ養殖場見学や地域の漁協の見学を行い、大村湾や松原の漁業について詳しい説明を聞くことにより、疑問を解決するとともに、新たな発見をさせる。
10月	※大村水産塾グループ ※長崎県長崎振興局県央水産業普及指導センター ・漁協見学	
11月	※大村市漁業協同組合松原支部 ○魚調理に挑戦しよう。(総合3時間)	○昨年度の活動や体験活動、漁業について調べたことから、川や海の環境保全について着目させ、自分たちができる取り組みを考えさせる。 ○カキ殻や炭にどれくらい浄化作用があるか、実験により確認させる。
12月	※一般社団法人長崎魚市場教会 ○海や川の水質を改善しよう。(総合4時間) ・カキ殻と炭を使った水質浄化実験	
1月	※NPO法人長崎海洋環境研究会 ※国立大学法人長崎大学大学院工学研究科 ○学習したことを発信しよう。(総合7時間) ・調べたことをまとめよう。⑥	○集めた情報を、KJ法等を用いて、情報の整理・分析を行わせる。調べたことを地域社会に発信するために、どのようにまとめたらよいかを考えさせる。
2月	・学習発表会をしよう。① ○松原の海について学んだことを振り返ろう。 (総合1時間)	○1年間の学習を通して学んだことを基に、これからどのように松原の海と関わりながら生きていくかを考えさせる。 ○5年生は、次年度にさらに学習を深めていけるように意欲を継続させる。
3月		

4 活動の様子

① 魚釣り体験

学校近くの「海釣り公園」において、魚釣り体験を行った。児童は簡単に釣れるものだと思っていたが、実際には数匹しか釣り上げることができなかった。季節や潮の干満などの条件や大村湾の環境について興味をもち、調べていきたいという意欲をもつことができた。



② ヨット体験

長崎県立長崎工業高校ヨット部の指導者・生徒を招聘し、ヨット体験活動を行った。陸上でヨットの組み立てを体験したり、操作方法を学んだりした後、学校近くの漁港から実際に沖に出て、ヨットの操作体験を行った。大村湾の穏やかな波とさわやかな潮風を全身で感じ、海に対する愛着を深めることができた。



③ アワビ陸上養殖見学

大村水産塾グループ、長崎県長崎振興局県央水産業普及指導センターの御協力のもと、学校近くにあるアワビの陸上養殖場を見学させていただいた。アワビの養殖について丁寧に教えていただき、アワビの陸上養殖であっても水質が悪化すると影響をうけることを知り、環境についてさらに興味をもった。



④ 松原漁協見学

地元も漁協の支部長の方にお話を伺い、地元で特産物であるナマコ漁について実際に見せていただいた。漁具や、漁師の仕事、やりがいや苦労などを教えていただいた。後継者不足や漁獲量の減少に悩む現状を知ったり、私たちが新鮮な魚を食べられるのは漁師の方のおかげであることに気付いたりすることができた。



⑤ 魚調理講習会

長崎魚市場協会のご協力のもと、魚調理講習会を行った。長崎県が漁獲量1位を誇るマアジの3枚おろしに取り組んだ。児童は味や栄養など、魚の魅力を改めて感じ、水産資源を守るために海の環境を良くしていきたいという感想をもつことができた。



⑥ カキ殻と炭の水質浄化実験

長崎大学大学院工学研究科、NPO法人長崎海洋環境研究会の御協力のもと、カキ殻と炭の水質浄化実験を行った。ネイチャーアクアリウムを利用して、カキ殻や炭にはどれほど水を浄化する効果があるのかを調べた。十分なデータが得られれば、実際の河川に設置することを考えている。



⑦ 海洋学習発表会

昨年度に引き続き、5・6年合同で学習発表会を行った。大村市教育委員会、本年度、海洋学習を行うにあたり、御指導・御協力いただいた方々、地域・保護者の方々に向けて、一年間を通して行ってきた海に関する体験的・探求的な活動の中で学習してきたこと、学習を通して考えたことについて自分たちの言葉で発信することができた。



5 成果と課題

<成果>

- 大村湾の環境や水産業について調べ、様々な体験活動をしたことにより、児童はこれまで気付かなかった松原の海の魅力を再認識することができた。
- 大村湾の環境への関心が高まり、川や海への排水に気を付けたり、ごみの投棄を減らしたりしなければならないという、実践的な態度につながる考えをもつことができた。
- 水産業について調べた結果、漁獲量の減少や漁業従事者が減少しているという現状を知り、その課題を解決していきたいという思いをもつことができた。

<課題>

- 大村湾の環境や水産業についての課題を明らかにし、自分たちにできる取組はないか模索した結果、カキ殻の水質浄化実験に行きついた。まだ実験期間が短く、十分な結果が得られていないため、まだ、実際に河川の水質浄化を行うまでには至っていない。本年度学習したことを生かしながら、次年度以降の活動につなげていきたい。

5年生「松原の海に親しみ、海を愛する活動」

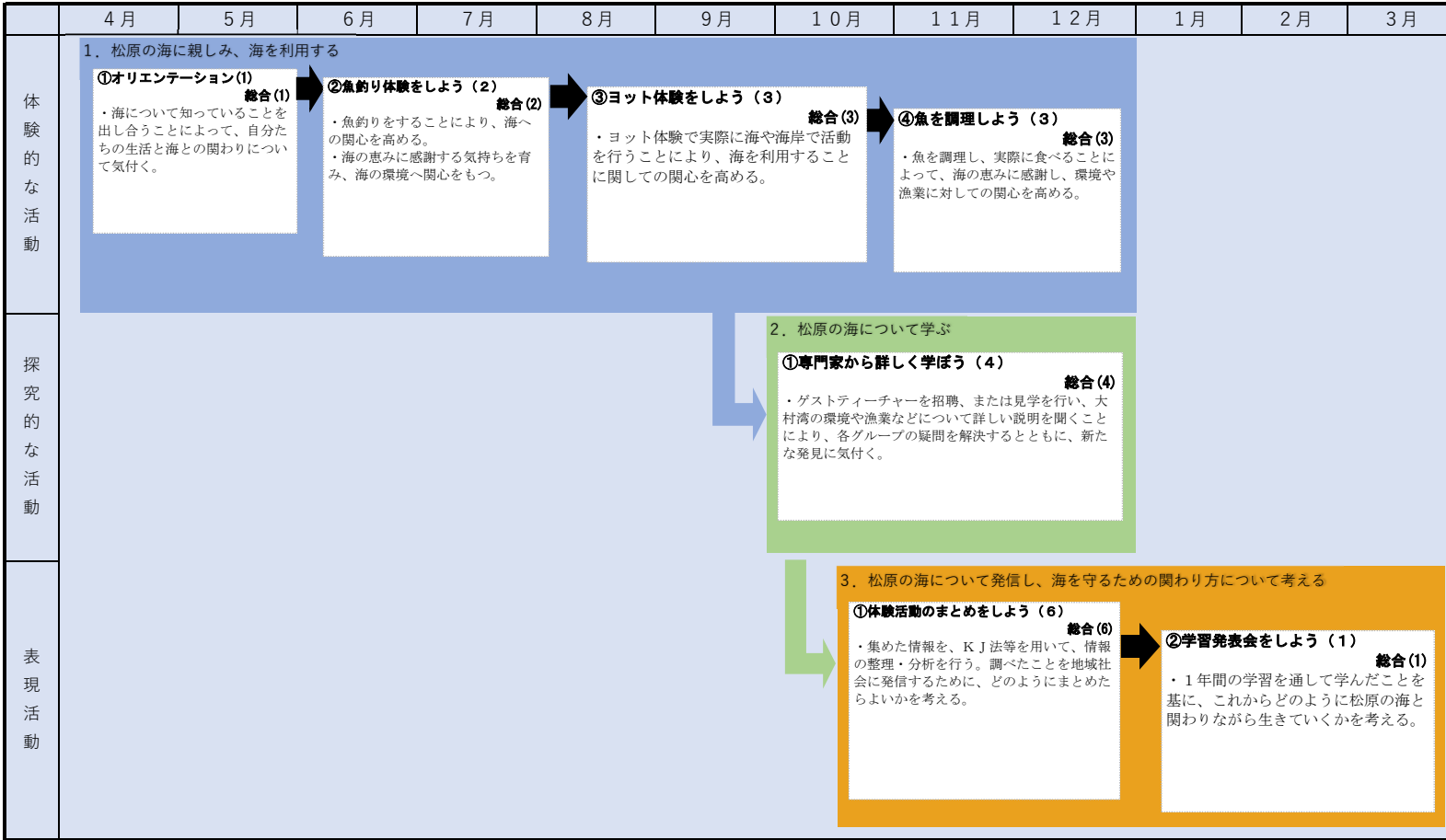
大村市立松原小学校

【実践のねらい】
 松原の海を題材とした学習を通して、日常生活や身近な海との関わりの中から、自ら課題を設定し、よりよく問題を解決していく資質や能力を身に付けるとともに、主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、松原の海に親しみ、海を愛する気持ちをもたせることができるようにする。

○時数 4月～3月 総合的な学習の時間（20時間）
 ○目標
 (1) 体験活動や探究的な活動を通して、児童がこれまで気付かなかった松原の海の魅力について再認識することができる。
 (2) 松原や大村の海について、自ら課題を見つけ、主体的に解決しようとする資質・能力を育てる。
 (3) それぞれが設定した課題を協同して解決し、まとめたことを発信することにより、豊かな表現力を育てることができる。
 (4) 様々な体験活動を行い、問題解決的な学習を進めることにより、自己と松原の海との関りについて考え、実践する力を育てる。

【主な連携機関と内容】

- ・長崎県立長崎工業高等学校ヨット部：ヨット体験
- ・一般社団法人長崎魚市場協会：魚調理講習会
- ・NPO法人長崎海洋環境研究会：環境学習
- ・長崎県長崎振興局県央水産業普及指導センター：漁業学習
- ・国立大学法人長崎大学工学研究科：水質浄化実験
- ・大村水産塾グループ：養殖場見学
- ・大村市漁業協同組合松原支部：漁協見学



6年生「松原の海に親しみ、海を愛する活動」

大村市立松原小学校

【実践のねらい】
 松原の海を題材とした学習を通して、日常生活や身近な海との関わりの中から、自ら課題を設定し、よりよく問題を解決していく資質や能力を身に付けるとともに、主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、松原の海に親しみ、海を愛する気持ちをもたせることができるようにする。

○時数 4月～3月 総合的な学習の時間（25時間）
 ○目標
 (1) 体験活動や探究的な活動を通して、児童がこれまで気付かなかった松原の海の魅力について再認識することができる。
 (2) 松原や大村の海について、自ら課題を見つけ、主体的に解決しようとする資質・能力を育てる。
 (3) それぞれが設定した課題を協同して解決し、まとめたことを発信することにより、豊かな表現力を育てることができる。
 (4) 様々な体験活動を行い、問題解決的な学習を進めることにより、自己と松原の海との関わりについて考え、実践する力を育てる。

【主な連携機関と内容】

- ・長崎県立長崎工業高等学校ヨット部：ヨット体験
- ・一般社団法人長崎魚市場協会：魚調理講習会
- ・NPO法人長崎海洋環境研究会：環境学習
- ・長崎県長崎振興局農水産業普及指導センター：漁業学習
- ・国立大学法人長崎大学工学研究科：水質浄化実験
- ・大村水産塾グループ：養殖場見学
- ・大村市漁業協同組合松原支部：漁協見学

